

## 歴史関係アドバイザーとの意見交換結果について

1. 日時：令和3年12月17日(金) 14時00分～15時30分
2. 場所：県庁行政棟5階 501会議室
3. 目的：県庁舎跡地の活用における、歴史情報等の効果的な情報発信や歴史を活かした賑わい創出等についてご意見をいただく
4. 出席者：
  - ・糸屋 悦子（株式会社イーズワークス代表）
  - ・大田 由紀（長崎史談会理事）
  - ・木村 直樹（長崎大学多文化社会学部教授）
  - ・野上 建紀（長崎大学多文化社会学部教授）
  - ・野田 伸治（有限会社グランド企画代表）（五十音順、敬称略）
5. 主な意見
  - ・現在の基本構想素案にも、専門家等の意見を踏まえ、埋蔵文化財の状況に配慮した整備や配置とすることが盛り込まれている。今後とりまとめられる埋蔵文化財調査報告書の内容も確認しながら進めてほしい。
  - ・過去の調査で出土した石垣を見せる方向で検討するとのことだが、その他の遺構についても、広場等であれば平面表示により紹介することなども検討可能。
  - ・11月の一時開放時に県庁舎跡地の中に入って見て、出島がよく見え、まちが見渡せる良い場所だと改めて認識すると同時に、石垣上の敷地に関してはそんなに広くないと感じた。広場は広いほうが多目的に使えるので、基本構想素案にあるように敷地中央部に建物を配置して広場を分割する必要があるのか疑問。
  - ・この場所でしかできないもの、必然性があるものを整理するためにも、最初は何も作らないで、必要な機能を見極めながら段階的に進める方がよい。石垣上については、高低差がある敷地の使い勝手を確認するためにも、実験的に使っていくことは重要と考える。
  - ・海外の文化を受け継いだ長崎のまちの見晴らしのいい場所にセントラルパーク的なものができれば夢のようである。段差があるのも独特でよい。
  - ・歴史や機能的な部分をアピールするあまりに、いろいろな人たちが気軽に集まれるような場所ではなくなってしまうのではと懸念する。いつでも気軽に立ち寄れるとの視点も必要だと思う。
  - ・広場は広場として一定の広さを確保して、建物は中央でなくどちらかに寄せたり小規模にするほうがよいのではないか。

- ・広場の設計はどのような活用が出来るか検討し、それを念頭においたものにして欲しい。デザイン優先だと活用が狭まる。
- ・現存する石垣によって岬をイメージできるので、石垣が見える空間を大事に考えてほしい。
- ・石垣上については、建物はしばらく建てずに、利活用のし方をよく見極める必要がある。先ず石垣下を整備して、バスベイを設けたり、出島を含めた歴史を発信する施設などがあれば、出島との人の流れもできるのでいいと思う。
- ・出島との連携に留意してほしい。例えば、修学旅行シーズンになると出島は大変混雑するので、出島の歴史の紹介などと併せて、集合場所などとしても活用することで、観光客等で賑わう場にもなりえると思う。
- ・石垣上は出島も含めた歴史を紹介するゾーンとして、石垣下はマルシェや飲食などによる賑わいのゾーンにしてはどうか。朝市などがあれば人も集まり地元も活性化する。
- ・長崎開港フェスタ450の際、出島表門橋に長崎くんちの来航船を並べていたが、夜は川面に写りすごく良かった。出島と一体化した夜間の活用も考えられると思う。
- ・県庁跡地を含め、アジサイなどの花でまちを彩るような工夫を検討してはどうか。1年を通して色んな方が来たくなる場所にする様々な仕掛けのひとつとして検討できればと思う。